

安倍外交の

挑戦



川上高司

● 4 ●

融システムを立ち上げる予定だ。

欧米主導の、世界銀行と国際通貨基金（IMF）に対抗し、「新開発銀行（New Development Bank）」と、「準備通貨基金（Reserve Currency Fund）」が創設される。中国は他のBRICS諸国と、欧米の金融システムから脱却した別のシステムを創設し、新たなマネーの流れを作る。習氏は1500人のリーダーと企業経営者を引き連れて南米大陸へ上陸したのだ。

CE)など「シー・パワー」連合に対抗して作られた、アジア諸国26カ国からなる「ランド・パワー」連合である。

中露のこのような動きは将来の「ユーラシア同盟」の拡大を予知させる。そうならば世界島（ユーラシア大陸）の真ん中の「ハートランド」にそれぞれ位置する2つの大国が圧倒的な地政学的優位を確保することになる。

そのユーラシア同盟にドイツが加わるかどうかが、ヨーロッパの経済大国であり、影響力が強いだけに、その去就が注目される。ドイツはロシア同様、「ランド・パワー」国家である。中露の「ユーラシア同盟」にドイツが加われれば「シー・パワー」は風前のともしびとなる。

サッカー地政学・ユーラシア同盟

「ユーラシア外交」が、サッカーW杯が開催されたブラジルで展開された。「ドイツ対アルゼンチン」の決勝戦（14日）のスタンドに観衆に混じって、ドイツのメルケル首相とロシアのプーチン大統領がいた。サッカー会場を舞台に独露の密会が行われていたのだ。

ドイツはウクライナ問題で、英国やフランスとは一線を画し、強硬な経済制裁はしなかった。東独出身でロシア語が堪能なメルケル氏と、東独での駐在経験がありドイツ語が堪能なプーチン氏は、電話会談を頻繁に行っている。

プーチン氏は決勝戦翌日、ブラジルの保養地フォルタレザで開催された新興5カ国（BRICS）首脳会議で、中国の習近平国家主席と会合した。そこで中露は、他のBRICS諸国（インド、ブラジル、南アフリカ）とともに、新たな金

W杯決勝会場で独露首脳が密会

「ランド・パワー」連合への対抗策は

ロシアはウクライナ問題で、中国は南シナ海問題で欧米から閉め出しを食らった。このことは逆に、中露を接近させる結果となった。プーチン氏は5月20日に中国・上海を訪問し、中国とエネルギー供給で提携をしたらうえで、ともに「アジア信頼醸成措置会議」（CICA）に出席して艇入れを行った。

中露中心のCICAは、ASEAN（東南アジア諸国連合）地域フォーラム（ARF）や、欧州安保協力機構（OS

CE)など「シー・パワー」連合に対抗して作られた、アジア諸国26カ国からなる「ランド・パワー」連合である。

中露のこのような動きは将来の「ユーラシア同盟」の拡大を予知させる。そうならば世界島（ユーラシア大陸）の真ん中の「ハートランド」にそれぞれ位置する2つの大国が圧倒的な地政学的優位を確保することになる。

ドイツ将校であった地政学者のカール・ハウスホーファーは、ソ連と提携して「ハートランド」を手中に収め、「ランド・パワー」の強化を行い、世界帝国への足固めを論じた。

これに対して、安倍晋三首相は「シー・パワー」連合を強化すべく、BRICS首脳会議と前後して、ニュージールランド、オーストラリア、パプアニューギニアを訪問した。安倍外交の挑戦は続く。（拓殖大学海外事情研究所所長）